

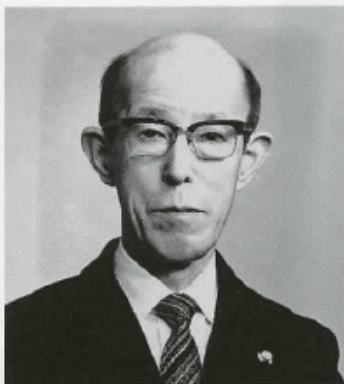
③4 須賀杯争奪駅伝競走大会

毎年10月から1月にかけてのロードレース・シーズンには、いわゆる「学生三大駅伝」一出雲全日本大学選抜駅伝（10月）、全日本大学駅伝（11月）、東京箱根間往復大学駅伝（1月）が開催されます。今回は、そのロードレース・シーズン中に豊田高専（豊田工業高等専門学校）と名古屋大学を舞台に開催される須賀杯争奪駅伝競走大会について紹介します。

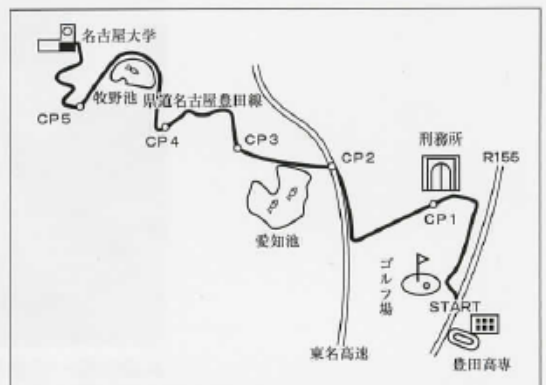
通称「須賀杯駅伝」は、毎年11月下旬に開催されます。コースは、下図のように、豊田高専から名古屋大学までの6区間約27kmとなっています。その名称は、創始者である須賀太郎（1903～1986）本学名誉教授にちなんでいます。須賀は、名古屋大学教授時代の1956（昭和31）年から約3年間、学生部長を務めるとともにスポーツを通じての教員学生間の交流を図り、本学体育会の発展にも尽力しました。

当時、名古屋大学工学部教授で陸上競技部顧問をしていた須賀は、1963年4月に豊田高専が設置された際に同校の初代校長に就任し、10年間校長を務めたのち1974年3月に同校を退官しました。その間、豊田高専においてもスポーツ振興にも力を注ぎました。

須賀杯駅伝のように、大学と高専との共同開催で一般道を利用する駅伝は全国的にも数少ないとのことですが、本学と豊田高専の双方でスポーツ振興を図った須賀であったから実現することができた駅伝であるといえます。1964年に第1回大会が開催された須賀杯駅伝は、2004年11月28日秋晴れのもと第41回大会が開催されました。この大会の参加チーム数は本学33チーム・豊田高専26チームの計59チームで、競技の結果、本学のチームが須賀杯を手中に収めました。



▲須賀太郎 豊田高専初代校長



▲須賀杯駅伝ルート図(名大トピックスNo.139より)



▲須賀杯



▲駅伝競争大会の様子(名大トピックスNo.139より)